

令和6年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
舞台芸術	身体表現	4	2	文系(選択者)

使用教科書	副教材等
「基礎から始める演技トレーニングブック」(王様出版)	

科目の目標
音声による表現と身体による表現をバランスよく融合させる技術を身につけさせることによって、自己の表現力を発達させる。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	舞台構造の基礎的知識と舞台表現において必要となる技能を学び活用できる。
② 思考・判断・表現	演目の設定を判断し、状況に応じた表現方法を習得する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	舞台への興味を持ち、自らの身体を使った表現の習得に努める。
評価方法	
レポート提出・実技及び授業中の活動の様子を総合的に評価する。	

学習計画						
月	【単元名】	【内容】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	身体づくり	演技者としての身体をつくる	ストレッチ・基礎体力づくり	○		○
5	身体訓練(1)		ダンスの基本ステップの習得、リズム運動、緊張・脱力等の身体訓練	○		○
6 7	身体訓練(2)		ジャズダンス等のダンスレッスン、発声・活舌等の言語訓練	○	○	○
9 10	表現力の向上	総合的な演技力の向上	ステップの組み合わせ、身体・表情の使い方、マイム、感情表現等の訓練	○	○	○
11 12	効果的な表現の工夫		脚本を用いた役作りの実践	○	○	○
1	芸術発表会	公演の実施	受講生による作品発表	○	○	○
2	一年間の振り返り	レポート作成	発表会の反省に基づき、個々の課題を確認する。	○	○	○

令和6年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
舞台芸術	舞台技術	2	2	文系(選択者)

使用教科書	副教材等
『ステージ・舞台照明入門』(リットーミュージック)	必要に応じ分野ごとの教材プリントを配布

科目の目標
舞台構造・照明・音響効果・大道具等の舞台スタッフの基礎を学ぶ

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	舞台における基本的用語・各種機材の使用方法を習得する
② 思考・判断・表現	照明・音響・舞台装置のプランニングとオペレートを行い、より良い表現方法を模索していく。
③ 主体的に学習に取り組む態度	グループワークによるプランニングと役割分担を行うことで、自己の技術研鑽に努めていく。
評価方法	
学年末ペーパーテスト、各分野でのプランニング発表、音響・照明の実技発表など	

学習計画						
月	【単元名】	【内容】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	舞台	用語と仕組み	舞台で用いられる用語と舞台構造を理解する。	○		○
5 6	照明	照明機材の操作	照明機材の種類を学び、機材ごとの特性を活かした照明プランを考える。	○	○	○
7	音響効果	音素材の編集・加工	音編集ソフトを用いて、パソコン上で音素材の編集・加工をできるようにする。	○	○	
9 10	実践発表	同一脚本を用いた発表	グループごとに舞台配置・照明・音響プランの作成と仕込みを行い、実際に操作してみる。それぞれの作品について相互評価を行い、よりよいプランの検討を行う。	○	○	○
11 ～ 2	大道具実習	自分たちでデザインした大道具の製作	基本的な工具の使い方をマスターし、脚本に基づく大道具デザインとその製作にあたる。	○	○	○

令和5年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	生活書道	2	2年	選択者

使用教科書	副教材等
きれいな「ペン字」にはわけがある 生活編 文例と練習 (二玄社)	資料プリント

科目の目標
硬筆・毛筆の諸活動を通して、生活の中の実用的な書に関する知識や技術を身につけ、創造的な表現及び鑑賞の能力を高めるとともに、生涯にわたって書道を愛好する心情を養う。

評価の観点とその趣旨				
① 知識・技能	創造的な書表現をするために、書の効果的な知識と表現の技能を身に付け表している。			
② 思考・判断・表現	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。			
③ 主体的に学習に取り組む態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。			
評価方法				
ア ワークシート に取り組む姿勢	イ 練習問題 などをもとに総合的に評価する。	ウ 実技・理論(小)テスト	エ 提出物の内容	オ 授業

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	実用書の概要	筆記用具 線の基本	・用具・書式を理解する ・姿勢・執筆を学ぶ	○		○
5	実用書の基礎	楷書の特徴 行書の基本	・漢字の楷書・行書を学ぶ	○	○	○
6		別紙資料用意	・草書の読み方を学ぶ ・常用漢字と旧字体・書写体を理解する ・活字と手書き文字の違いを理解する			
7		ひらがな	・漢字仮名交じり文を学ぶ			
9	手紙・葉書	手紙の書き方 はがきの書き方	・手紙・はがきの書式と表現方法を理解する	○	○	○
10	掲示文	別紙資料用意	・掲示文の書式と表現方法を理解する			
11	毛筆による 慶弔の表書き	暮らしの中の書	・伝統的な書式について理解する ・冠婚葬祭のマナーについて理解する			
12	毛筆による 年賀状	別紙資料用意	・賀詞・添え書きなどの伝統的な書式について理解する	○	○	○
1	履歴書	履歴書	・履歴書の書式と表現方法を理解する			
2	実用書のまとめ	別紙資料用意	・実用書の書式と表現方法を理解し、作品にする			

令和6年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
芸術	美術Ⅱ	2	2	文系（選択）

使用教科書	副教材等
「高校生の美術2」（日本文教出版）	なし

科目の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・美術文化と主体的に関わり美術の幅広い表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

評価方法

ア 授業への取り組み等の行動観察 イ 制作作品、アイデアスケッチ
ウ ワークシート等への記述内容 エ 提出物の内容 アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。

学習計画

月	題目	領域	項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
					①	②	③
4	ガイダンス						
4 5	鉛筆デッサン	表現	絵画	・鉛筆デッサンの基礎について理解できる。 ・モチーフをよく観察し、形を捉えることができる。 ・明暗、空間感、量感を意識して完成度を高めることができる。	○		
		鑑賞		・自分の作品について自分の言葉で考え、まとめることができる。 ・意図や工夫を感じ取り、話し合うことができる。		○	○
6 7	四コマ漫画	表現	絵画	・漫画表現のさまざまな効果から主題を生成し、主題を効果的に表現するために創造的に構想を練ることができる。 ・材料や道具の特性を生かして表現を追求できる。	○		
		鑑賞		・自分の作品について、自分の言葉で考えまとめることができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる		○	○
9 10	美術史	表現	彫刻	・意図に応じて材料の特性を生かし、質感や量感、動勢などの表現ができる。	○		
		鑑賞		・生活や社会の中にある日本及び諸外国の美術作品について学び、自他の作品から美術の働きや社会との関わり方について捉えることができる。		○	○
11 12	ポスターデザイン	表現	デザイン	・色彩の基礎やトーン、平塗りの基本について理解できる。 ・依頼者や伝える情報などに関心を持ち、伝達内容や伝える相手などから主題を形成し、形と色の組み合わせや構成などを練ることができる。 ・色彩の効果や材料の特性を生かして、計画的に進めることができる。	○		
		鑑賞		・生活や社会の中にある日本及び諸外国の美術作品について学び、美術の働きや社会との関わり方について主体的に考えることができる。		○	○
1 2	絵具演習	表現	絵画	・意図に応じて材料や定着材を選択し素材から制作することができるようになる。 ・絵の具の特性を生かすとともに表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。	○		
		鑑賞		・自分の作品について、自分の言葉で考え他者に伝えることができる。 ・表現の意図や工夫、作者の思いを感じ取ることができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅱ	2	2年	選択者

使用教科書	副教材等
教育芸術社	なし

1 科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 評価の観点とその趣旨

①	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
②	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 評価方法

ア 取組みの観察 ウ ワークシート等への記述内容	イ 演奏、作品の内容 エ 提出物の内容	アからエを観点別に見取ったものを総合して評価する。
-----------------------------	------------------------	---------------------------

4 学習計画

時期		題材名	領域	項目	題材の学習目標	教材	評価の観点 (特に重視するものに○)		
							①	②	③
一学期	4 5	美しく歌おう	表現	歌唱	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて独自の表現意図をもって歌唱表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	合唱曲 他	○	○	○
	6 7	感情を音楽で表現する方法を比較しながら音楽の良さや美しさを味わおう	鑑賞		①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深めている。 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ③主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	歌劇について 「トゥーランドット」 「カルメン」 「トリスタンとイゾルデ」 他	○	○	
二学期	9	器楽表現に必要な奏法技能を身に付けよう	表現	器楽	ヴァイオリン ①曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現のために必要な、体の使い方を理解している。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ヴァイオリンの表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	「カノン」 「きらきら星」 「歓喜の歌」他	○	○	
	10 11	声の特徴を生かした表現を考えよう	表現	歌唱・創作	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて独自の表現意図をもって歌唱表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。		○	○	○
		器楽表現に必要な奏法技能を身に付けよう	表現	器楽	ミュージックベル ①曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。 創意工夫を生かした表現のために必要な、体の使い方を理解している。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ヴァイオリンの表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	クリスマスソング 「もろびとこざりて」 「もみのき」 「サンタが街にやってくる」 他	○	○	○
	12	音楽史/楽典	鑑賞		①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深めている。 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考えとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ③主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○	○	
三学期	1 2	旋律を美しく歌おう	表現	歌唱	①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて独自の表現意図をもって歌唱表現を創意工夫している。 ③主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	合唱曲 卒業ソング	○	○	○